

健全な男女共同参画社会をめざす会

正しい男女平等とは

[トップ](#) [入会のご案内](#) [会報](#) [活動内容](#) [リンク集](#) [お問い合わせ](#)

[会報一覧に戻る](#)

なでしこ通信 16号

なでしこ通信 目次

第16号



- “ジェンダーフリー条例”を廃止した千葉県市川市
高安紘一市議にインタビュー
- 市川市条例の新旧比較（部分）
- 柳沢発言を考える
- 高知からの便り 「田下先生をお迎えして」
安岡富士子

健全な男女共同参画社会をめざす会 H19・3・1

なでしこ通信 第16号

“ジェンダーフリー条例”を廃止した千葉県市川市

高安紘一市議 にインタビュー

Q) この条例を廃止したのは？

「ジェンダーフリー条例」は現実には存在する男女の性差と違いを無視して立論しています。そのために何事においても男女が「自立的個人」となり、「対等な立場」で関わり、権利として性と生殖を主張するという不自然かつ奇妙な構造を生み出してしまいます。

しかしわれわれは、新条例に基本理念として「男らしさ・女らしさを否定することなく、互いにその特性を認め合い、尊厳を重んじる社会」の実現に励むとうたっております。現実には存在する男女の性差、違いを認めることから出発しています。あるものはあるのです。

Q) とりわけ重視した点は？

「専業主婦」についてです。第四条に「専業主婦を否定することなく、現実には家庭を支えている主婦を家族が互いに協力し、支援する家庭」という項目を加えたのはジェンダーフリー論者の主張と異なります。

また「子を産むという女性のみには与えられた母性を尊重するとともに、育児における父性と母性の役割を大切」にする家庭を実現するという条項も入っております。地域でも「男女がその特性を生かしつつ、平等に地域の活動に参画し、互いに協力していくことができる」ようにするとしています。

教育の場でも「男女が互いにその特性を尊重しつつ、

それぞれの人権を大切にする教育」「必要に応じて適切に名簿の作成が行われる等、区別と差別とが混同されることのない運営」の実現ををうたい、特に「男女別室での更衣等が行われる等、思春期の性別に配慮した教育」「社会生活に必要な家事、子育て、介護、ボランティア等の体験を重視した教育」を行うとしています。



Q) 条例改正は大接戦だったそうですが。

議員総数41名中、賛成22、反対18、棄権1でした。僅差とっていいのですが、この4票の開きというのは大きいですね。従来地方議会に限らず、保守系議員の賛否表明は土壇場になってひっくりかえるという例が多いのですが、市川市議会では棄権1で落ち着きました。

何しろ（条例改正）反対討論に立った皆さんはベテランの論客ばかりで手慣れたものでしたが、こちら賛成討論の発言者は皆一期生の新人議員。それも初々しい若手ばかりでした。あまり政治用語が身につけていない議員もありました。しかし私はそれで良い、いや、それだから良いと思いました。

なぜなら、左翼の皆さんがジェンダーフリーというもっともらしい言葉を発明して市民を催眠術にかけたわけですが、普通の市民はどう思ったか、生活現場の反応として意見を述べる必要があると思ったからです。そのためには普通の生活用語を使ってジェンダーフリーを批判し、男女の性差、違いを無視した男女混合合宿、騎馬戦、自制心と思いやりを欠いた放任教育、行き過ぎた性教育を見た場合、通の市民が現実の生活感覚で捉えた場合、どう思うか。それをとつとつと語るほどますます市民の生活感覚を踏まえた意見が議会に反映されようというものです。

左翼の皆さんはびっくり。賛成討論が終わった時点で「保守陣営の切り崩しは

できない」「無理だ」とあきらめたそうです。

Q) 良識的な市民が立ち上がったと言いますが。

サイレント・マジョリティ（声なき多数派）と言えば、左翼の独占用語でしたが、ようやく正しい使われ方ができるようになりました。首相補佐官の山谷えり子さんが「市川は素晴らしい」と絶賛しているようですが、それは条例の中身だけでなく、行動に決起した保守系議員と多くのサイレント・マジョリティの力を指しているのではないのでしょうか。

今後は市川市に限らず、千葉県全域、全国の地方自治体で活動する地方議員たちと情報交換ネットワークを築き上げ、事実上の「第二国民会議」になるような大勢力が生まれたら楽しいですね。

市川市条例の新旧比較（部分）

【旧条例】	【新条例】
●男女が自立した個人として、多様な生き方を選択することができる社会	○ <u>男女が男らしさ、女らしさを</u> <u>否定することなく、互いに</u> ○ <u>家族一人一人が家庭尊重の精神に基づいた</u>
●家族一人一人がジェンダーに捕らわれることなくそれぞれの個性を大切にす家庭	<u>相互の理解と協力の下、それぞれの個性を大切にす家庭</u>
●「男は仕事・女は家庭」と	○ <u>専業主婦を否定するこ</u>



いう固定的性別役割分業意識
に縛られることなく...

●ジェンダーに捕らわれない

男女それぞれの人権を大切に
する教育

●セクシュアルハラスメント

のない教育



となく現実に家庭を支

えている主婦を家族が互いに協力し支援する

家庭

○男女が互いにその特性を尊重しつつそれぞ

れの人権を大切にする教育

○心と体のバランスや生命の尊

厳に配慮し 発達段階に応じて適切に行われ

る性教育



柳沢発言を考える

「子どもが二人以上いない人は健全じゃないのか」「人生それぞれ大事に暮らそうとしている個々人の人生をどうして健全、不健全と決め付けられるのか」

「少子化対策を進めるべき責任者の発言とは思えず、不見識も甚だしい」
等々。

柳沢発言の影響は今も尾を引き、野党は長期戦の構えすら見せている。厚生労働省と言えば年金、医療、介護、福祉等、少子化を最も鋭敏に感知する役所である。その大臣として出生率の回復は焦眉の急とも言える最重要課題であることは理解できる。しかし、それを割り引いたとしてもこの発言は不注意にすぎよう。子育て世代にとって、結婚や出産は完全に「個の自由」領域の問題であり、価値観を交えた言葉で「おかみ」ととやかく言われる筋合いのものではないからだ。

しかし、この発言は単に否定し糾弾さえしていればいい問題なのだろうか（彼の「健全な」という発言が私たちのグループ名とかぶっているから弁護しようというのではない）。元来子育てほど苦勞の多い仕事はそうそうあるものではない。時間、体力、神経、金銭をすり減らしながら二十年もつづく大変な事業である。「個」としてのゆとりと自由、そして豊かさを満喫する人生を送りたいという方にとっては、なぜ子どもなどつくろうとするのかは理解の及ばぬところであろう。「限りある人生を自分のために生きたい」という願いはそれなりに尊重されるのが近代市民社会というものである。

しかし、である。もし大半の若者がそう考え「子ども」を選択しなければ、家庭や地域、国はどうなってしまうのだろう。年金制度は破綻し、医療も介護も教育も、いや、労働そのものが急速に縮小していくはこと火を見るより明らかである。つまりこの社会そのものが「次の世代」の存在と引き継ぎを大前提として組み立てられているのである。「子どもが消える社会」と言えば、そんなことはないと一笑に付される方もいるかもしれない。しかし、やや芝居がかって言えば、わが国の少子高齢化は統計上「人類史にかつてない速度」で進行している。ジェンダーフリー教育による父性・母性否定の風潮、また、個の生命

は父祖から連綿と受け継がれているという歴史感覚の希薄化がこれに大きく拍車をかけている。少子化の根底には人生観、生命観の劣化があるように思えてならない。



田下昌明先生をお迎えして

素晴らしい田下先生を高知にお迎えして、400人の会場をほぼ満席にし開かれた講演会は、受講された多くのの方々に感動と気づきと行動の大切さを与えて頂きました。会員に感想文を書いて頂くようお配りした用紙も、8割回収することができました。1枚1枚に残された受講者の感想は、よかった、帰って子供を今日から抱っこする、もう少し早く聞いておきたかった、もう一度子育てをしてみたい、他等など主催者にとってうれしい、やってよかったと一同よろこびを分かち合いました。

これまでいろいろな講演会をきいていますが、今回の田下先生のように、ジェンダーフリーや男女共同参画条例を多くの聴衆の前ではっきり否定され

た方はありませんでした。聞いていて胸がスーとする思いと共に、更にそれに手を染めている、東大の上野千鶴子他3名の名前を挙げ完全に否定のみでなく国家破壊論者だと言い切った田下先生に、又尊敬の心が高まりました。お心は謙虚で発言はよしあしをハッキリ言われたことへの力強い内容でした。主催した国際ソロプチミストよさこい高知が受けとめていただいたことに大きな意義があります。それは会員お一人お一人が御自分の家、会社、病院経営に戻れば多くの人脈とつながっているということです。愛媛で昨年開かれた講演が今回高知への導入に大いにお役に立たせて頂きましたこと心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

[国際ソロプチミストよさこい高知 安岡富士子]

■□□事務局からのお知らせ■□□

■ 4月28日（土）に県立美術館講堂にて午後2時から高安紘一・市川市議会議員の講演会を開催致します。詳細は同封のちらしをご覧くださいませ。市川市では条例を推進する立場の審議員15名のうち10名が「新条例は受け入れられな

い」と辞任を発表した由。

■1月中旬に発送の「なでしこ通信15号」に同封致しました安江薫氏の「『いじめ』はあるのが正常では？」は2ページと3ページが入れ替わっておりました。あらためて正規のものをお送り申し上げます。大変失礼致しました（ご文章は加筆されております）。

■田下昌明先生は7月8日（日）に松山で講演されます。主催は「愛媛県モラロジー女性クラブ」でございます。詳しくはめざす会事務局まで。

■月2回「めざす会」学習会を開催しております。日時や会場はのお問い合わせは事務局まで。

■会員になられて1年が経過する方には振替用紙を同封しております。更新の時期にご家族やご友人にもご入会いただけますようお願い致します。年会費はおひとり1,000円でございます。新しい方のお名前は通信欄にお書き下さいませ。

健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 小笠原ミワ子

〒790-0931松山市西石井1-3-30

電話090-3181-4004 FAX 089-964-3903

メール t64r59@bma.biglobe.ne.jp

